

清末民初上海における中国語新聞広告からみる 日本文化の中国への伝入

謝 薇*

The Introduction of Japanese Culture into China:
Form the Perspective of Advertisements on Shanghai Newspaper
during the Late Qing and Early Min Period

XIE Wei

In the late Qing and early Min periods, language and publications became two prevalent ways of Japanese culture transmission in China. After Jiawu China-Japan War, the two transmission methods reached their peaks. Language with the newly created Japanese words as its main body was transmitted across China in through professors and publications, which helped Japanese language a component of modern Chinese character system. Publications that were introduced to China were mostly about the new learning that Japan produced by borrowing from the west. They had a very big influence on China.

キーワード：申報 広告 日本文化 出版物 清末民初

一 はじめに

日清戦争以前に中国は、西洋からの知識と語彙の輸入を主とした。上海における西洋書籍の訳本の出版も活発になった。その時期で日中両国の人々の交流は一定の範囲内に限られ、主に両国の外交官や商人等の接触であった。中国は日本の書籍、知識に与えた注目は極めて少なかった。1888年、黄遵憲が『日本国志』の修定本を完成したことは、中国は系統的に日本の知識を導入した初期の状況を象徴していると考えられる。日清戦争以後、中国人はいきなり視線を日本に移し、日本を通じて新学を受容するのが一番有効で便利な方法だと認識された。中国は改めて西方新学の導入を考え直し、日本ルートから知識を輸入し始めた。日本の書籍の中国への導入、出版、発行は盛んな勢いで進められた。一方、日本は既に近代語彙体系の構築を完成し、中国を含めた漢字文化圏に新たな漢字語彙を輸出し始めた。日中の間

* 謝薇：中国南昌大学新聞与伝播学院講師、関西大学博士（文学）。

の知識の流れは、旧来の中国から日本への流れが、逆転して日本から中国へと流れが変わった。

本論は、『申報』に見える日本広告を対象にして、日本文化が中国に伝入した過程を探究するものである。次にその具体的な事例を挙げながら考察していきたい。

二 日本語語彙の中国への流入

1885年、福澤諭吉が「脱亜論」という論策を発表したことは、文化事件として日本は中華文化の影響から脱したことを象徴すると考えられる。明治20年代（1888年-1898年）において、近代日本語の語彙の主要な部分は大体完成され、文学上の言文一致運動も第一段階の成功を収めた。19世紀90年代に入り、言文一致の実現に伴い、日本語は近代語彙体系の構築を大体完成した¹⁾。日本は中国を含む漢字文化圏に新たな漢字語彙を輸出し始めた。

大正時期（1914年-1925年）に入り、外来の新概念を吸収した主要の手段とした音訳の「外来語」は、西洋諸国の語彙を導入した最も便利な方法になった²⁾。そこで、中国の五四時期になって、日本は中国へ外来語に由来した語彙を伝播したことはほぼ終わって、中国語言語体系は既に日本語の語彙を接收しなかった。

要するに日本語の語彙は中国語言語体系に大量に流入したのは、日清戦争の直後から中国の五四運動にかけてであった。この段階は日本語語彙の伝入ピークであると考えられる。戦前と比べて、日中両国も積極的、意図的に日本から中国までの知識、語彙の流れを完成した。

1. 日本語流入語彙の種類

日本は中国語言語体系に輸入した語彙を2種類に分ける。1つは「和語」と呼ばれる固有語彙である。固有語彙は、主に人名、地名等を表し、具体的な事物を表す固有語彙がある。戦前から続々と中国に流入したが、大体中国語言語体系に受け入れられなかった。『申報』の日本広告における固有語彙は、「硝子」、「汽船乗客荷物取扱所」、「天婦羅」、「荒物」、「玉子」、「問屋」、「料理」、「八百屋」、「海老」、「寒天」、「郵便」、「切手」、「早稲田」、「横浜」等を列挙することができる。固有語彙は日本民衆の日常生活に広く使われていた。しかしながら、中国語言語体系は元に事物を表す語彙があることから、日本語の固有語彙の導入は、多種の語彙で同じ事物を表す乱れた局面をもたらす恐れがある。最後に中国語言語体系に受容されたのは、ただ日本特有の人名、地名を表す固有名詞であった。

もう1つは日本語の新造語彙である。新造語彙は主に学術類の語彙であり、日清戦争以前に殆ど中国に伝入されなかったが、戦後大量に中国に導入された。さらに、大部分は中国語言語体系に吸収されるものになった。『申報』の日本広告において新造語彙は頻繁に使われていた。例えば、「生理学」、「解剖学」、「衛生学」、「神経」、「組織」、「温室」、「百科全書」、「防疫」、「薬物学」、「臨床」、「便覧」、「分析」、「病理」、「霉菌学」、「精神病学」、「宗教」、「神学」、「哲学」、「發明家」、「記者」、「社會」、「文芸」、「憲

1) 沈国威『近代中日詞彙交流研究：漢字新詞の創製、容受与共享』、中華書局、2010年2月、25-26頁。

2) 前掲沈国威『近代中日詞彙交流研究：漢字新詞の創製、容受与共享』、110頁。

法」、「選挙」、「立憲」、「政党」、「警察」、「取締」、「財政学」、「會計法」、「経済学」、「保険」、「統計学」、「特許」、「意匠」、「商標」、「家政」、「人権」、「法理学」、「民法」、「不動産」、「債権」、「破産」、「農学」、「農業」、「教科書」、「農場」、「林業」、「水産学」、「工学」、「建築」、「土木学」、「出品」、「雑誌」、「商法」、「商品学」、「勸業」、「国立」、「為替」、「銀行」、「電話」等の新造語彙は中国語言語体系に受容された。さらに、1件の広告に多くの新造語彙を使っていた。例えば、東亜会社が『申報』第11945号（1906.7.20）に掲載した「新書局大発売十五日」という広告において、多くの新造語彙が見出される。

東亜公司新書局大發賣十五天廣告 敝公司開設以來為日未久，厚蒙中國士商光顧日多一日，生意之興旺固然而亦，深感諸君子枉顧之情，今本店二層樓 匠工修飾潔淨，又值東京運來東文圖書、華文圖書、教科書、文具類、物理器械、化學器械、博物標本、樂器運動具等類極多陳列，以待遠近士商雅顧，茲自華曆六月一日起至十五日止，除贈禮物外並送特別扣票，此票注明折扣並物品類，用期以本年年底為滿。謹此廣告。³⁾

（東亜公司新書局の十五日間の大発売の広告 本社は開設されて以来、紳商のご愛顧を頂いて、売れ行きが好調です。本社は二階を改装し、東京から日本語図書、中国語図書、教科書、文房具、物理器械、化学器械、博物標本、樂器、運動器具等を輸入しました。お客様のご来店をお待ちしております。（中略）以上、広告致します。）

この短い広告に、「教科書」、「文具」、「物理」、「器械」、「化学」、「博物」、「標本」、「運動」等の新造語彙がたくさん掲載された。これらの語彙は大体中国語言語体系に受容された。

なぜ日本の新造語彙は大量に中国語言語体系に吸収されたかと言えば、外国の新学は潮が湧くように中国流入された結果、外来知識に応じた言語体系を構築する要求が生じたが、中国語の新造語彙は量の上ではその要求を満足することができなかったからである。そして、日本の新造語彙は漢字の造語でも、漢字の意味でも、中国人にとって理解しやすい言葉である。したがって、日本の新造語彙は次第に中国語言語体系に受容されるようになった⁴⁾。

受容の過程に関しては、「電話」という日本語の新造語彙の受容を例にすると、『申報』の広告から「電話」という言葉は受容されていった過程が分かる。1876年においてアメリカの科学家ベルが電話を発明し、翌年に上海汽船招商局が既に簡易電話を取り付けている。1882年まで上海の民衆は皆自由に電話を使用することができた。中国語は「德律風」という言葉で英文「telephone」を音訳したが、日本人は「電話」という漢字語彙を作って「telephone」のことを表した。そこで、その時期の『申報』に、日本広告には「電話」という表現が使われていたが、ほかの広告には「德律風」という言葉がよく見られる。例えば、阿格登洋行が『申報』第12486号（1907.10.31）に掲載した「軍用服装」という広告の中に、「德律風」という言葉が見られる。

3) 申報社『申報』（影印版第84本）、上海書店、第11945号（西1906年7月20日、金曜日）、187頁。

4) 前掲沈国威著『近代中日詞彙交流研究：漢字新詞的創製、容受与共享』、53頁。

阿格登洋行軍用抄衣 本行新到天青元色厚呢、黄色斜文布各十餘種、專配合中國水陸軍服、学堂操衣之用、價廉物美與別家迥不相同。承蒙賜顧請移玉三馬路東九號二樓本賬房看樣面議是盼。德律風二千零十五號。李毓華謹啟。⁵⁾

(阿格登洋行 軍用服装 本行が新着の青い厚いウールのコート地、黄色のあや織の布等の各十餘種類の布を販売致します。これらの布で専門的な水陸軍隊の軍服が作られます。価格は大変廉価です。お客様は3馬路9号にある本行の帳場にお越し頂いて購入してください。德律風2015号 李毓華謹啓。)

同月に日本の博愛病院が『申報』第12459号(1907.10.4)に広告の中に「電話」という言葉を使った。

大清光緒二十五年准許創設 日本博愛醫院廣告 本院長綿貫三郎先生專治内外婦科、産科、兒科、痘科、楊梅、結毒疑難雜症、精理眼科。中西官商過訪請認明本院是荷。上海四馬路二十五號(電話一四九八號) 本院謹啟⁶⁾

(大清光緒二十五年創立 日本博愛病院廣告 本院の院長である綿貫三郎が内外婦人科、産科、児童科、種痘科、梅毒などの難病や特に眼科を治療することに精通しています。上海四馬路二十五号(電話1498号) 本院啓)

以上の2件の広告から、この時期に「電話」という言葉はまだ上海の民衆に受け入れられなかったと推測できる。20世紀の初期に入り、「電話」という言葉の導入に関して1つの逸聞がある。数名の日本に留学する紹興の留学生は連名で故郷に手紙を送って、日本の近代化の状況を詳しく紹介した。その中に「電話」という言葉に言及し、特に「以電器傳達話語、中國人譯為‘德律風’、不如電話之切。(電気で相互に話せることについて、中国人は「德律風」という言葉で翻訳したが、日本語の「電話」という言葉のほうがもっと適切である。)」という文で注釈した⁷⁾。このことは、当時の中国人は日本語の新造語彙は中国語の語彙に取って代わることが出来るか否かに関する考えが反映されていると言えるであろう。

その後、「電話」という言葉は次第に上海の民衆に接收されるようになった。『申報』に中国の商人でも、外国の商人でも、大部分は「電話」という語彙を使っていた。例えば、『申報』第13000(1909.4.15)に全昌金鋼鉛号という中国の商号が掲載しためがねを販売する広告に、「上海二馬路跑馬廳全昌金剛鑽號電話一七〇四(上海二馬路競馬庁にある全昌金鋼鉛号の電話は1704です。)」という文があった。『申報』第13700号(1911.4.2)に湖北セメント工場が掲載した広告に、「本廠總批發所設在上海中旺街二百廿一號電話三四三一(総発売所は上海中旺街221号にあり、電話は3431です。)」ということを言及した。また、フランスの達興銀会社が『申報』第14052号(1912.4.6)において掲載した広告の中に、「本公司定章辦理華總理朱葆三啟電話二五八二(本社の華人支配人朱葆三啟、電話は2582です。)」という文があ

5) 申報社『申報』(影印版第90本)、上海書店、第12486号(西1907年10月31日、木曜日)、740頁。

6) 申報社『申報』(影印版第90本)、上海書店、第12459号(西1907年10月4日、金曜日)、403頁。

7) <http://zh.wikipedia.org/wiki/Talk:%E7%94%B5%E8%AF%9D>

った。したがって、20世紀10年代に入って、「電話」という日本語の言葉は上海において次第に受容されたと言える。

2. 日本語語彙受容のルート

日本語の語彙が中国に導入されたルートは主に言語と出版物である。言語の流入は日本語を享受したことを通じて実現された。日清戦争以後、日本語は漢字文化圏の強勢の言語になってきた。そこで、日本語を媒介にして西洋の新学を勉強した。中国人は次々と日本語を習ぶ理由があった。例えば、『申報』第12980号（1903.3.26）に掲載された「日本語夜間学校」という広告が、中国人が日本語を学習する差し迫った要求により上海における日本語学習の状況を示している。

日文夜館 夫漢和之交通始盛於隋唐，雖互相通問不絕，而比之隋唐則猶遠不及，方今聖朝圖強之基，且諭令各省學堂兼習洋文，蓋以常今外務日多一日，幾交涉事件貿易往來，必知語言文字因能利器。滬上西文學堂林立，獨和文無之，僕得夜間餘暇特設日文夜館，備籌文語速成之法，尤願商界交通之利同敦有才之用。額收二十名，學費按月一元，如有志者請至法大馬路吉如裏花業公會報名，額滿不收。此布 本館謹啟。⁸⁾

（夜間日本語学校 中国は日本との交流は隋唐から盛んになりましたが、現在は隋唐より交流が少なくなりました。朝廷は中国を振興するため、各省の学堂に外国語の科目を開設する詔書を公布しました。近頃、外交事務、対外貿易、商業往來は日に日に盛んになってきました。外国の言語、文字をしっかりとマスターするのは、中国人の振興の利器になります。西洋の言葉を教授する学校が全上海に林立しましたが、ただ日本語の学校がありません。私は夜間の余暇を利用して、特に日本語学校を開設し、生徒を募集します。学費は月に1元です。有志はフランス租界の大馬路吉如裏花業公會にお越し頂いて応募してください。以上、本館が広告致します。）

上記の広告から、当時の上海では外国語を勉強することが非常に流行していたが、日本語学校は西洋語学校よりずっと少なかったことがわかる。中国人は日本語を習うことを奨励するため、中国と日本の両方も意図的に日本語学校を開設し、各種の奨励を与えた。例えば、『申報』第8886号（1898.1.9）に中国人によって開設された東文学社という日本語学校の募集広告が見られる。

東文學社告白 本社因中國通東文者太少，而將來交涉日繁，語言不通種種不便，故糾合同志集□創辦。先招學生四十人，延聘日本文學士為之教習專科東文。其社章已附登第十五冊農學報。茲定於明年正月開學，如有年在三十以內十五以外，中文已經精通之人願習東文者，鑒於正月望前至農會報館報名，以便定期。考取入社每人每年領金洋二十元，願住社貼膳□每月加膳金洋四元。⁹⁾（□：印字不明）

8) 申報社『申報』（影印版第99本）、上海書店、第12980号（西1909年3月26日、金曜日）、359頁。

9) 申報社『申報』（影印版第58本）、上海書店、第8886号（西1898年1月9日、日曜日）、50頁。

(東文学社広告 現在中国で日本語に通じる人が非常に少ないです。将来日本との往来はきっと頻繁になることから、言語が通じないことは多くの不便をもたらすおそれがあります。本校は、特に日本の文学士を日本語の教習に招聘し、生徒40名を募集します。もし、15歳以上30歳以下の中国語に精通している人で日本語を習おうとすれば、正月の望日以前、『農会報』新聞社にお越し頂いて応募してください。もし、合格すれば、一人は毎年に銀幣20元を受け取ることができます。本校は宿泊する学生に月に銀幣4元の食費を支給します。)

東文学社という日本語学校は『農会報』の新聞社に開設された。『農会報』は、梁啓超等が創立した農務会により1897年5月25日に創刊された。『農会報』は常に日本語から翻訳された農業の科技知識を掲載するため、日本語の翻訳の人材を緊急に必要としていた。日本語に精通する人材を育成するため、特に東文学社という日本語学校を開設し、日本の文学士を教習として招聘した。さらに、合格者には奨学金と食費を提供したのである。この広告から、当時上海社会は日本の知識に対する情熱と日本語を学習するブームが反映されていたと見ることができる。

一方、日本側も、様々な方法で中国人の日本語学習を奨励していた。例えば、『申報』第14918号(1914.8.21)に日本の伊藤書院が日本語科の生徒の募集広告を掲載した。

伊藤書院東語科續招新生 時間每晚七時至十時、學科日本語言及文法、資格中國文理清通者為合格、納費每月學費三元膳宿收費七元半。卒業六個月、卒業給與證書者送日本留學、或授與職業、其別有志願者聽之。入學有志來學希速來院報名、院址上海英大馬路北首貴州路逢吉裏一弄、詳章票一分。院董長 内山伊藤謹啟¹⁰⁾

(伊藤書院は再び日本語科の生徒を募集します。授業時間は每晚7時から10時まで、授業科目は日本語語彙と文法、募集資格は中国語に精通した方、学費月に3元、食費月に7元半。6ヶ月で卒業した人は日本へ留学に派遣され、又は仕事を推薦されます。有志は速く伊藤書院にお越し頂いて応募してください。上海イギリス租界貴州路逢吉裏一弄 院長 内山伊藤謹啟。)

上記の広告から、伊藤書院が、卒業後に日本へ留学させることで、日本語を学習しようとする中国人生を引き付けていたことがわかる。

日本語学校のほか、日本語教習という個人活動も多くあった。例えば、『申報』第13938号(1911.11.26)に日本語の個人教習の広告が掲載された。

日語特別教授 日間約定時刻可到人家教授、晚間在家教授。願學日本語者請來面談可也。虹口文路9號漢學館。¹¹⁾

(日本語教授 私は昼間に生徒の家へ赴き日本語を教授することができ、夜に私の家で生徒に日本

10) 申報社『申報』(影印版第129本)、上海書店、第14918号(西1914年8月21日、金曜日)、782頁。

11) 申報社『申報』(影印版第115本)、上海書店、第13938号(西1911年11月26日、日曜日)、382頁。

語を教えることができます。日本語を勉強しようと思う方はお越し頂いて面談していただいても結構です。虹口文路9号漢学館）

国内のほか、日本との通信等により中国人に日本語を教える方法もあった。例えば、『申報』第15486号（1916.3.26）に「日本語速成通信教授」という広告が掲載された。

東洋語速成通信教授，有志研究諸君請寄郵票六分，至日本神戸平野下祇園町中國精神研究會内，中國東洋語研究會收，即將詳細章程奉贈。¹²⁾

（日本語速成の通信教授 日本語を速成しようと思う方は、日本神戸平野下祇園町にある中国精神研究会の中国日本語研究会に6分の切手を郵送すると、詳しい日本語速成の章程がもらえます。）

神戸において専門的な中国日本語研究会が設立され、通信で無料に中国人に日本語を教授したことから、日本側が積極的、意図的に中国に日本語を輸出しようとしていたことがわかる。一方、日本語は大量に流入したことに対して、『申報』において多くの日本語を教授する広告が現れていたことは、中国側において日本語人材を緊急に必要としていた状況が反映されている。

もう1つは、出版物を通じて日本語の語彙を伝播しているルートである。主に日本の本、新聞、雑誌等の出版物が翻訳されて中国に導入されたこと、及び直接に中国において出版社から発行されたことである。具体的な内容を以下の点に述べてみよう。

日清戦争以後、大量の日本語語彙は中国言語体系に受容されていたが、その過程は実に極めて曲折していた。日本語語彙の受容に対して、当時の中国の学術界において幾つかの主張が形成されていた。具体的には、積極接収という主張は、日本語の新造語彙が中国語の造語習慣と一致すれば、できるだけ受け入れるべきだと考えられた。批判的の主張が、一部分の日本語の受容は中国言語体系の統一性に傷害をもたらし、理解上の混乱の局面を引き起こすため、批判的に日本語を受け入れなければならないと考えられた。また、完全に反対を主張する一派が、日本に強烈的な敵視の民族主義により、日本語の導入を完全に抵抗した。その強い態度も、その後勃発する排日運動からも反映される。

三 上海等における日本語出版物の流布

日清戦争以後、中国人はいきなり視線を日本に移し、日本を通じて新学を受容するのが一番有効的、便利な方法だと認識した。その上、1905年に科举制度が廃止された後、知識人にはより多くの生きる道があった。彼らは商業機構、海関等の政府組織の職員を担当し、翻訳社、新聞社、出版社、雑誌社、弁護士事務所、病院等のところの専門的な技術人員になった。このため、学校の生徒の人数が以前よりさらに多くなった。そこで、社会は新学を学習するため日本の出版物に対する需要量が大いに増加した。当時の商務印書館が『申報』第11091号（1904.3.6）に掲載した広告から、中国人は日本の出版物を切望

12) 申報社『申報』（影印版第139本）、上海書店、第15486号（西1916年3月26日、月曜日）、405頁。

した状況が分かる。

商務印書館廣告 岡本監輔先生撰 日本維新人物志 洋装一冊售價一元，華装二冊售價八角。小學校師範學校教科書、各種掛圖、中學校高等女學校教科書、教師參考教育各書、童話及少年各書、雜書、軍事各書、小説及文藝各書、婦人及青年各書、專門學各書、大雜誌九種、各種日記類。中國士商欲求覽日本刊行圖書久稱不便，本館知日本金港堂圖書公司在日本設立最久，所刊圖書風行全國，聲望素著。特與定約代理凡金岡堂發行書籍圖書，一經出版即行寄到，今將已經寄到各種臚陳館內，以備士商垂覽外埠惠寄郵費即將書目送呈批發面議函購具便價日格外克己。上海英租界棋盤街 商務印書館。¹³⁾

(商務印書館廣告 岡本監輔先生が著作した日本維新人物志は、洋装本の1冊が1元で、中装本の2冊が8角です。また、小学校師範学校教科書、各種の掛け図、中学校高等女子学校教科書、教師参考教育書、童話、少年読本、雑記、軍事書籍、小説、文芸書籍、婦人読本、青年読本、専門書籍、雑誌9種類、日記等の書籍を発売致します。以前は、中国の読者が日本の図書を求めるのは、大変不便でした。本館は、日本国で風靡した一番長い歴史がある金岡堂という出版社と契約を結び、金岡堂の中国の代理権を取得しました。現在、館内には金岡堂がすでに発行した書籍を陳列しています。お客様は本館にお越し頂いて本を見ていただいても結構です。価格は大変廉価です。上海イギリス租界棋盤街商務印書館)

「中國士商欲求覽日本刊行圖書久稱不便（以前から、中国読者が日本の図書を求めるには、大変不便でした。）」という文から、当時の中国の知識人が日本の書籍を入手するには大変困難であり、日本の書籍を通じて新たな知識を習得することに対する切望が分かる。

需要に対する供給が追いつかないため、日本の書籍の中国語訳の導入、出版、発行は急速な勢いで進められた。当時の上海において多くの優秀な日本の出版社が集まっていた。統計によれば、1880年から1904年まで中国において発行された日本の単行本（翻訳版）は2,204冊に達した。その中で、宗教哲学が98冊（4%）、文学が288冊（13%）、社会科学が697冊（32%）、歴史地理が257冊（11%）、自然科学が267冊（12%）、応用科学が396冊（18%）、雑記が201冊（10%）という状況であった¹⁴⁾。

『申報』の日本広告を分析すれば、当時中国が導入した日本の出版物の内容は農業、工業、商業、生理学、心理学、哲学、社会学、政治、法律、行政、文学等といった新学に偏重していたことがわかる。例えば、『申報』第10487号（1902.6.30）に日本の日清書館が掲載した広告の中に、世界通史、日本歴史、西学課程、中西度量衡換算表、日本憲法、改良幼稚読本、化学概論等の新学の書籍が見られる。

『申報』第12194号（1907.4.4）に商務印書館は掲載した広告のように、法学類の書籍は最も人気があった日本の書籍の1つである。

13) 申報社『申報』（影印版第76本）、上海書店、第11091号（西1904年3月6日、日曜日）、355頁。

14) 丁相順『晚清赴日法政留学生与中国早期法制近代化』、『中外法学』、2001年第5期。

商務印書館新出政法之書の廣告 總發行所在上海棋盤街中市 分設京都、奉天、天津、漢口、成都、重慶。新譯日本法規大全 附解字一冊 日本大學校畢業生 錢恂、董鴻祜編纂，劉崇傑、何燭時…分類校譯，全書八十冊定價洋二十五元；警察講義錄 江蘇留學日本警察學生編譯，全書十四冊定價洋五元；日本警察法述義 江蘇留學日本警視廳學生譯述，全書二大冊定價大洋八角；比較國法學 譯日本法學博士末岡精一原本，全書一大冊定價大洋七角；日本預備立憲之過去事實 本館法政部譯輯，洋裝一冊定價大洋二角五分。¹⁵⁾

(商務印書館の新出法政書籍の廣告 總發売所は上海棋盤街の中市にあり、代理店は北京、奉天、天津、漢口、成都、重慶にもあります。日本の大学の卒業生錢恂、董鴻禕が編纂し、劉崇杰、何燭時(中略)等が分類して校訳する新訳日本法規大全は、解字1冊を添え、すべて80冊であり、定価が銀幣25元です。日本の警察学校への江蘇の留學生が編集して翻訳する警察講義録はすべて14冊があり、定価が銀幣5元です。日本警視庁に留学した江蘇の留學生が翻訳して編集する日本警察法述義はすべて2冊があり、定価が銀幣8角です。日本の法学博士末岡精一が著作する比較国法学は1冊であり、定価が銀幣7角です。本館の法政部が翻訳して編輯する日本予備立憲之過去事實は、洋装本の1冊であり、定価が銀幣2角5分です。)

商務印書館は当時日本の法規をすべて含む新訳法律大全を全部で80冊を出版した。また、法政類の書籍は当時の社会に人気があったため、商務印書館は「法政部」という専門的な編集部を設置し、日本の法律、政治に関する本を出版して中国人に紹介した。

また、導入した日本の書籍の中に、各種類の教科書が非常に人気のある書籍である。例えば、東亜公司は『申報』第12221号(1907.5.1)に普通科、師範科講義録を出版した広告を掲載した。

普通科、師範科講義録 第十三編新出 每編大洋五角、全編十四回大洋六元。本講義録共分二十四門，系日本專門分科教育諸大家講授之稿本複□，諸大家斟酌損益而成，此書文理透徹，讀者瞭然不啻親承耳提面命於諸大家之門，學界諸書未有如此之善者。自經敝公司印出第一編即蒙各學界歡迎，今又新出第十三編尚有第十四編，月內亦可印出通□□□學者得此講義錄，有二十四種類之實用查前出之各編所存不多，請學界諸君從速購取遲恐不及特此廣告。上海大馬路第四十四號東亞公司書藥局啟。¹⁶⁾ (□：印字不明)

(普通科、師範科講義録は第十三編を新たに出版しました。全編は14回で銀幣6元であり、每編が銀幣5角です。講義録は24科目に分けて、日本の専門家の講義の原稿をもとに編集されています。講義の筋道が立ってよく書かれているため、第一編が発行されて以来、読者、学术界のご愛好を頂いて、第十三編まで出版しました。学术界の皆さんは急ぎ本行にお越し頂いて購入してください。以上、上海大馬路44号にある東亜公司から広告致します。)

15) 申報社『申報』(影印版第87本)、上海書店、第12194号(西1907年4月4日、木曜日)、382頁。

16) 申報社『申報』(影印版第88本)、上海書店、第12221号(西1907年5月1日、水曜日)、11頁。

日本の出版物が上海に輸入された量は、日清戦争以前より戦後は多くなった。1つは、書籍商人が日本書籍を販売したことである。例えば、『申報』第8167号（1896.1.12）に理文軒という上海の書店が日本の書籍を発売した広告を掲載した。

石印萬國史記 萬國史記系為日本岡本監輔所著，列序五大洲各國更始及新舊政令，有條不紊詳盡無遺。每部十本洋一元。三馬路中昌畫錦裏理文軒發售。¹⁷⁾

(石版印刷万国史記 万国史記という本は日本の岡本監輔の著作であり、五大洲の各国の歴史と新旧の政治・法律を詳しく述べています。一部は十冊であり、銀幣1元です。三馬路中昌画錦裏理文軒が発売致します。)

上の広告のように、中国の書籍商人は実力が不足で、経営の規模は小さかったため、販売した書籍の種類は非常に単一であった。ある書店はさらに石版印刷の日本書籍を販売していた。

もう1つは出版社によって日本の書籍を出版、発行されたことである。『申報』に頻繁に広告を掲載した出版社は、主に修文館、申江堂、日本堂、上海美術工藝製版社、商務印書館、東亞公司、樂善堂等である。これらの出版社は、当時上海において人気があった政治、経済、法律、科学の分野や教育機関の教科書等の新学書籍を出版することに偏向していた。特に商務印書館が上海の有名な出版社である。その人気度は次の広告から分かる。商務印書館は『申報』第12040号（1906.10.27）に「新訳日本法規大全予約」という広告を掲載し、日本法規大全の予約を読者に知らせ、予約の方法と定員数を教えた。その後、商務印書館は再び『申報』第13620号（1911.1.5）に「漢訳日本法規大全第二次予約券の発売」という広告を掲載した。

發售漢譯日本法規大全第二次預約券廣告 是書材料之□盒改訂之完□，定價之低廉均為人所共知，第一次預約券三千號提早售罄，定者尚絡繹不絕，特即日發售第二次預約券，以副惠顧諸君之雅意，定價十五元預約八元先付四元，□取預約券一張，出書後續付四元，憑券取書。另印樣本函索即寄。特此布告。再、此預約券售至宣統二年三月為止，購者從速，遲則不及。又已購第一次預約券者亦望從速，惠臨憑券付洋，將書取去為盼。上海商務印書館各省分館全啟。¹⁸⁾ (□：印字不明)

(漢訳日本法規大全第二次予約券の発売広告 本館が第一回に発行した3,000枚の漢訳日本法規大全の予約券は早めに売り切れしました。注文者が絶えないため、本館は既日第二回の予約券を発売しました。元の定価は15元ですが、予約購入すれば8元で買えます。一枚予約券は4元で、本を入手後に4元を支払っても結構です。今回の予約券の発売は宣統二年三月までです。定員に限りがありますので、申し込みはお早めをお願い致します。以上、上海商務印書館と各省の支店一同から広告致します。)

17) 申報社『申報』(影印版第52本)、上海書店、第8167号(西1896年1月12日、日曜日)、73頁。

18) 申報社『申報』(影印版第110本)、上海書店、第13620号(西1911年1月5日、木曜日)、65頁。

商務印書館は「日本法規大全」という本を発売するため、第一回到3,000枚の予約券を発行した。この本の価格は15円で、一般的な消費者にとって安くなかったが、予約券は早めに売り切ってしまった。そこで、二回目の予約券を発売していた。以上の2件の広告のように、商務印書館は二回の予約券を発売したことから、新学に関する出版物は上海において大流行していた状況、及び上海社会における新たな知識に対する切迫した心情が分かる。

日本の出版物の導入が盛んな勢いで進められていたこととともに、様々な問題が現れていた。その中に最も深刻な問題は著作権と翻訳との2つがある。著作権の問題は主に著作権の混乱に表れた。『申報』において2つの出版社が著作権を奪いあった広告が見られる。例えば、『申報』第11875号（1906.5.11）に東亜会社が掲載した広告は、ほかの出版社に対して複製禁止を求めた広告である。

東亜公司公告 本公司所售普通科師範科講義録第一編，現經本國領事函請上海道臺，出示保護嚴禁翻刻，深恐諸公未知，謹將告示抄錄於左。欽命二品銜賞戴花翎江南分巡蘇松太兵備道瑞為給示諭禁事。本年四月初一日准日本總領事永瀧來函，據本國東亞公司代表人山内崑稟稱，本公司現出普通科師範科講義録第一編，有本公司發售，呈請照會禁止翻刻，前來查駐冊局現未開辦應援前例，函請存案出示禁止翻刻等，因並送講義録第一編樣本到道除函複外合行諭禁為此示仰。書坊書賈諸色人等知悉，毋許將該公司發售前項講義録一書翻印漁利，如敢故違一經察出或被告發定行提究不貸，其各凜遵毋違特示。光緒三十二年四月十一日示。¹⁹⁾

（東亜公司広告 本社は在上海日本総領事館を通じ、上海道台に申告して普通科・師範科の講義録の第一編独占著作権を得ました。皆さんに知らせるため、ここに上海道台は公布している公文書を左に載せます。（中略）今年4月1日に日本総領事永瀧の書簡を受けました。書簡の中に、日本の東亜会社の代表山内崑によると、東亜公司是普通科・師範科講義録の第一編を發して海賊版を禁止するため、特に本官に独占著作権を申請したいと書きました。（中略）各書店はこの講義録を翻刻することを禁止します。もし、故意に違反すれば、厳しく処罰されます。光緒三十二年四月十一日示）

東亜公司是書籍の著作権が侵害されないように、在上海日本総領事館を通じて、上海道台に申告して講義録の独占著作権を得た。そして、東亜公司是特に『申報』において海賊版が出されることを禁止するという広告を掲載した。

また、商務印書館のような有名 of 出版社も広告において、教育部の名義を盗用したことがある。『申報』第14398号（1913.3.11）に「連日報上刊載之教育部審定教科書公布，系商務印書館所登，並非教育部所登，特此聲明。（連日に新聞に「教育部審定教科書公布」という広告を掲載したのは商務印書館です。決して教育部による掲載ではありません。特にここに声明します。）」という正式の警告声明が掲載されていた。しかしながら、商務印書館は『申報』第14501号（1913.6.21）に「商務印書館贈送教育部審定秋季始業用三學期編纂共和國教科書樣本（商務印書館は教育部に審定された秋学期から3学期の共和国教科書の見本本を贈呈致します。）」という広告を掲載した。明らかに、商務印書館は教育部の声明

19) 申報社『申報』（影印版第83本）、上海書店、第11875号（西1906年5月11日、金曜日）、402頁。

を無視して、本の売れ行きを広げるために教育部の名義を借りて宣伝目的を達成した。

そのほか、もう1つ深刻な問題は日本の書籍の翻訳である。日本語に翻訳する人材が不足していたため、当時上海における日本の書籍の訳本の状況は玉石混淆だと言える。中国の有名な新聞人、小説家である包天笑が著作した『鈞影樓回憶録』に、中日両国の文字が通じることから、知識人は簡単に日本語を習って、日本語の本を翻訳した。ある人は「は」を漢字の「是」、「の」を漢字の「的」に翻訳し、日本の漢字の部分の翻訳せずにするという方法で、日本の書籍をでたらめに翻訳したということに言及している²⁰⁾。その結果、日本書籍の訳本に悪影響をもたらした。この状況に対して、より多くの翻訳の人材を育成することは問題を解決する方法であった。多くの翻訳学校は『申報』において募集広告を掲載した。『申報』第9376号(1899.5.24)において中日翻訳学校が日本語を翻訳することを勉強したい生徒を募集する広告を掲載した。

中日翻譯學堂新開醬園二弄，華人日人均可入學，內設東文漢文諸科，日人則授官話上海話漢文。²¹⁾
(中日翻訳学校は醬園二弄に開設されました。中国人も日本人も入学することができます。翻訳学校が日本語、中国語等の科目を設置します。日本人に官話、上海語を教えます。)

また、『申報』第13072号(1909.6.27)に日文訳書会が生徒募集の広告を掲載した。

學餘速成日文譯書會招生廣告(一)總則 擇學者餘暇之時教授日本文法及奇字，由淺而深練習翻譯專書。(二)學額 以五十人為限，額滿不收。(三)學時 逢星期日下午自一時至五時，每月共授二十小時。(四)學期 五月廿四開課，七月廿四畢業。(五)學所 在三馬路東畫錦裏靖湖同鄉會。(六)學金 每月一元。(七)報名 五月初十起開課截止。(八)繳費 報名時須預繳一元，開課日再繳一元。(九)附課 逢星期六下午三時至五時教授日本語法。本學會謹白。²²⁾(□：印字不明)
(学余速成日文訳書会の生徒募集の広告(一)總則 本会は日本語の文法と語彙を教授して、順をおって翻訳の方法を教えます。(二)定員 50名を上限にします。(三)学時 毎週の日曜日の午後1時から5時までで、毎月に総計20時間です。(四)学期 5月24日から始まり、7月24日に終わります。(五)場所 三馬路東画錦裏靖湖同郷会にあります。(六)学費 月に1元です。(七)応募 5月10日から開学までです。(八)応募する時に1元を払って、始業の日に1元を払っても結構です。(九)附課毎週の日曜日の午後3時から5時まで日本語の文法を教授します。以上、本会から広告致します。)

日文訳書会が新聞広告の制約の中で学費、学期など詳しく生徒募集を行っていた。

20) 包天笑『鈞影樓回憶録』(中)、龍文出版社、1991年5月、265頁。

21) 申報社『申報』(影印版第62本)、上海書店、第9376号(西1899年5月24日、水曜日)、194頁。

22) 申報社『申報』(影印版第100本)、上海書店、第13072号(西1909年6月27日、土曜日)、823頁。

四 おわりに

上述のように、上海における代表的な中国語新聞である『申報』に掲載された日本文化関係の広告を対象にし、日本文化が中国に伝入した過程について述べた。日清戦争後の中国は西洋新学の導入を考え、新たなルートからの知識を輸入した。日本がその新たなルートになった。日本からの文化知識は上海に受容された過程について、導入の量からみれば、戦後の文化知識の導入は激増したと言える。輸入の内容からみれば、言語は2種類に分けられる。1つは「和語」と呼ばれる固有語彙であり、もう1つは日本語の新造語彙である。最後に中国語言語体系に受容されたのは、ただ日本特有の人名、地名を表す固有名詞、及び学術類の新造語彙である。出版物は農業、工業、商業、生理学、心理学、哲学、社会学、政治、法律等といった新学に偏重していたことがわかる。

伝播のルートからみれば、言語の流入は日本語の教授、及び出版物の発行を通じて実現された。特に、日本語を学習することを奨励するため、中国と日本の両方も積極的に日本語学校を開設し、各種の奨励を与えた。日本の出版物が上海に輸入されたルートは、日清戦争以前より戦後は多くなった。1つは、書籍商人が日本書籍を販売したことであり、もう1つは出版社によって日本の書籍を出版、発行されたことである。しかも、日本の出版物の導入が盛んな勢いで進められたとともに、様々な問題が現れた。その中の最も深刻な問題は著作権と翻訳との2つである。

伝播の角度からみれば、日中両方の態度が変わり、日本側は積極的、意図的に伝播したとともに、中国側も多種のルートを通じて積極的に文化知識を導入していた。伝播の目的からみれば、日本側は東アジア諸国の中で指導者の地位になるため、知識を中国に伝播していた。中国側も新学を学習するため、日本の文化知識を受容するようになった。そこで、日中の間の知識の流れは、旧来の中国から日本への流れが、逆転して日本から中国へと流れが変わったのである。